

非平和展



DAYS国際フォトジャーナリズム大賞2018 ハフリックプライズ
「シリア 瓦礫になった街で生きる」クリスチャン・ヴェルナー



DAYS国際フォトジャーナリズム大賞2018 2位
「アルゼンチン 暴力を受ける女性たち」カール・マンチーニ



DAYS国際フォトジャーナリズム大賞2018 3位
「ロヒンギャ難民 命がけの国境越え」オズゲ・エリフ・キジル (Anadolu Agency)



DAYS国際フォトジャーナリズム大賞2018 審査委員特別賞
「カザフスタン・セミパラチンスク核実験にさらされた村」フィル・ハッチャー＝ムーア



「アウシュビッツの図」丸木位理、丸木俊

平成30年11月11日(日)~12月9日(日)

開催場所: 川崎市平和館 1階屋内広場

入館無料

開館時間: 9:00-17:00

毎週月曜日と11月20日(火)は休館します。

主催: 川崎市平和館

協力: DAYS JAPAN、ANNE FRANK House、特定非営利活動法人グローバルプロジェクト推進機構、
原爆の図丸木美術館

~お問い合わせ先~

川崎市平和館 神奈川県川崎市中原区木月住吉町33-1 Tel 044-433-0171



「非平和展」について

非平和＝平和ではない、とはどのような状態でしょうか。戦争や武力紛争があると「平和でない」ことは確かですが、では、戦争や武力紛争がなければ、平和でしょうか。

平和学では、非平和を生み出すものを、「暴力」という概念を使って説明します。平和学の提示する暴力の概念は、武力を使った争いや、肉体的暴力や精神的暴力など、誰が行為者なのかが特定できる暴力だけでなく、貧困や差別など、非平和な状態に置かれる被害者を生み出すような社会の構造そのものも暴力として捉えています。平和学的な視線で見ると、私たちの住む世界は、非平和に満ち溢れていないでしょうか。

川崎市平和館は平成30年度の企画展として、「DAYS国際フォトジャーナリズム大賞」受賞写真や、アンネ・フランクのパネル「ANNE FRANK Meet & Learn」、画家の丸木位理・俊夫妻が描いた「アウシュビッツの囚」などの展示を通じて、理屈で考えるのではなく、視覚で非平和を感じるパネル展を開催します。「非平和展」をご覧になることが、平和な社会への転換を考える機会のひとつとなることを願っております。



「アンネ・フランクが最初にもらった日記帳の1ページ」
オランダ アンネ・フランクハウス所蔵

非平和展 関連イベント 映画上映 & 講演会

映画上映



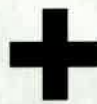
パレスチナ、チェルノブイリ、福島、沖縄・久米島へ

フォトジャーナリスト広河隆一の軌跡

戦場の人間の 広河隆一

ひとり
の人間として
ジャーナリストであるまえに、

監督 長谷川三郎



講演

フォトジャーナリスト 広河隆一氏 「人間の戦場」

～非平和への向き合い方～

開催日: 平成30年12月1日(土)

時間: 13:30-16:30

映画上映: 13:30-15:10

広河隆一氏 講演: 15:20-16:30

開催場所: 川崎市平和館 1階屋内広場

無料

広河隆一氏

1943年中国天津市生まれ。大学卒業後、中東問題を中心に取材を重ね、1987年に入った講談社の「DAYS JAPAN」編集部では、七三一部隊など昭和史の問題、核問題、中東問題などを取材し発表。1990年に「DAYS JAPAN」が廃刊になった後は、フリーとして湾岸戦争、パレスチナ問題、チェルノブイリ問題、9・11事件後のアフガニスタン戦争、イラク戦争などを取材。

2004年には報道写真誌「DAYS JAPAN」を再刊し、2014年まで編集長を務める。

2011年、東日本大震災翌日の福島県に入り、双葉町を取材。2014年に「DAYS JAPAN」編集長を退任、発行人兼フリーランスのフォトジャーナリストとなる。

現在に至るまで、取材活動を続けるだけでなく、「DAYS放射能測定器支援募金」「DAYS被災児童支援募金」「パレスチナの子どもの里親運動」「チェルノブイリ子ども基金」、福島の子どものための保養センター「沖縄・球美(くみ)の里」など、様々な救援活動も行ってきた。



(c)2015 aureo